

(2) 修学旅行

県立盲・聾・養護学校

学部別	行き先					日数					人数
	仙台方面	宇都宮方面	日立方面	東京方面	京都方面	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	
小学部	6	1	1	2		7	3				70
中学部	2			5			3	4			93
高等部					2					2	26
計	8	1	1	7	2	7	6	4		2	189

(3) 養護教育交流推進事業（県単事業）

① 心身障害児と健常児とが、共同の生活体験をもつことにより、健常児には障害者に対する正しい理解と認識を高め、障害児には積極的に社会に参加する態度の育成を目的に、昭和54年度より継続実施した。事業の充実を図るため、59年度より新たに地域指導者を参加させ地域社会との交流推進に努めた。

② 昭和60年度の実施状況

〈交 歓 会〉

対 象 校	実施期日	場 所	参加者数
盲 学 校 一 清 明 小 学 校	昭和60年 6月28日	霊山子どもの村	65人
西 郷 養 護 一 熊 倉 小 学 校	昭和60年 9月26日	大信村総合運動公園	90人

〈合同野外活動〉

対 象 校	実施期日	場 所	参加者数
盲 学 校 一 吾 妻 中 学 校	昭和60年 9月27日 ～28日	郡山少年自然の家	163人
西 郷 養 護 一 西 郷 中 学 校 第 一 中 学 校	昭和60年 11月12日 ～13日	郡山少年自然の家	100人

③ 養護教育諸学校においては、昭和59年度より二巡目となり交流校の拡大を図るとともに、地域指導者の協力を得て、事業内容の充実と地域社会との交流を深めることに努めた。この事業を通して心身障害児と健常児の双方に、当初の予想を上まわる成果をあげるとともに、地域社会の人たちの障害者に対する理解と認識を深めることができた。

(3) 訪問学校

〈県立盲・聾・養護学校〉

月	日	曜	対 象 校	養 護 教 育 課			高 校 教 育 課		教 育 事 務 所	指 導 委 員
				課 長 主 幹 補	管 理	指 導	駐 在 管 理	駐 在 指 導		
5	31	金	平 養 護 学 校	課 長	高 城	鈴 木 精 輔	相 楽	榊 原	小 野	佐藤(志)
6	11	火	い わ き 養 護 学 校	主 幹	小 松	斉 藤	相 楽	榊 原	小 野	佐藤(功)

8 学 校 訪 問

(1) 目 的

県立盲・聾・養護学校及び市立養護学校並びに特殊学級設置小・中学校を訪問し、学習指導、生活指導、管理運営等の実態を踏まえて、学校・学級経営の充実を期するための諸問題について検討し、必要に応じて相談、助言、指導を行ってきた。

(2) 訪 問 者

① 養護教育課

課 長

後 藤 眞太郎

主 幹

松 浦 淳 一

課長補佐

川 上 義 夫

〃

佐 藤 和 夫

主任管理主事兼振興係長

小 松 忠 夫

管理主事

高 城 俊 春

主任指導主事

斉 藤 眞

指導主事

鈴 木 信 良

〃

丹 野 功 一

〃

石 井 満

〃

根 本 乃 男

② 高等学校教育課

県北駐在管理主事

紺 野 勇

県中駐在管理主事

柿 沼 良 訓

いわき駐在管理主事

相 楽 達

県北駐在指導主事

大 場 賢 一

県中駐在指導主事

小 林 暢 夫

県南駐在指導主事

遠 藤 時 夫

いわき駐在指導主事

榊 原 久 雄

③ 教育事務所

県北教育事務所指導主事

佐 藤 幹 夫

県中教育事務所指導主事

吉 田 勝 人

いわき教育事務所指導主事

小 野 功

④ 学校教育指導委員

盲学校教諭

阿 部 稔 也

聾学校教諭

鈴 木 精 輔

いわき養護学校教諭

高 橋 正 義

郡山養護学校教諭

佐 藤 志 良

須賀川養護学校教諭

金 沢 文 夫

猪苗代養護学校教諭

佐 藤 功